

造形 JOURNAL

特集

「もの・いふ・くわい」が

つながる学習

—心がつながる、やる気につながる—



「もの・こと・ひと」が つながる学習

—心がつながる、やる気につながる—

造形活動は、子どもの未来をつくる活動です。

すてきな造形活動では、必ず子どもの思いが膨らんでいます。

そのために私たちは、子どもの今を見つめ、

子どもに寄り添った学習をつくり出してきました。

新型コロナウイルス感染症の影響から

社会全体に不安が広がる中で、

子どもたちは目に見えない愛情や友情を求めています。

そんな今だからこそ、「もの・こと・ひと」とのつながりを取り戻し、

一人一人のつながりを意識してやる気を引き出し、

知恵と勇気の素となる学習をつくり出していきたいと思えます。

12 美の姿

・肥後守とバッタもん【大坪圭輔】

13 ちかごろ気になる…

・子ども達の「夢」や「思い」を大切に【加藤由恵】
・GIGAスクール構想、どうする?!【鈴木彩子】

14 子どもと美術館

・東京富士美術館【学芸員:平谷美華子】
・成田市立成田小学校【瀬尾洋子】

20 題材アレンジレシピ

・[小学校]クニャクニャ・キラキラ・ワイヤータワー【平本かおり】
・[中学校]眼が合うひろふ動物園【蒔苗靖子】

24 先生のため

・「私があがいたあじさい」【関さとみ】



CONTENTS

- 04 特集「もの・こと・ひと」がつながる学習 — 心がつながる、やる気につながる — 【橋本敬子】
- 06 幼稚園・保育園での経験がつながる:「すなと なかよし ～おだんご いっぱい ならべたら…～」【安田文也】
- 08 地域とつながる:5の2のアートで町の人を元気にしようプロジェクト 【笠本健太】
- 10 造形家とつながる:「作品+その作者」のスクール出前鑑賞 【清水航】



「もの・こと・ひと」が つながる学習

— 心がつながる、やる気につながる —

子どもたちは、一人一人の体験や、今、生きているありように応じた表現を生み出しています。また、自分が体験したり見つけたりしたことを友達や家族などに伝えたいという思いが、表現意欲につながっています。そして、いろいろな試しながら思いついていくことや、つくりかえながらひらめいていくことが、つくり出そうとするやる気にもつながっています。

A1活用の時代になり、子どもにとって必要な力が見直されてきています。A1は、人間の力を超えていくものがあります。しかし、それを活用する側の人間における、未来につなげる力をもっと育てていかなければなりません。つまり、思いやりの心や共感性など、人間でなくては担えない力となる人間力を育てていくことが必要になってくるのです。

私は、このコロナ禍にあつての造形教育だからこそ、この人間力を十分に育てていかなければならないと思つています。

しかし今、子どもたちは、ソーシャル・ディスタンスの影響から、世の中のさまざまな「もの・こと・ひと」から孤立した状況になっています。今までは言葉にはしなくても、その表情から感じた喜怒哀楽や、一緒に活動することで感じた個性が、自分がつくり出していることへのエールでした。自然とつながっていることが、安心感や嬉しさを生み出していたのでしよう。不安がつる今だからこそ、世の中の一員であることや心がつながっていることを実感させる必要があると思つています。



私たち大人がその手助けをするとして、環境を整備して広げ、子どもたちの考える力が発揮できるようにすることで、はないでしょうか。そのためには、今までの学習をイノベーションしていくことが必要です。子ども自身が「マこれって前にやったことにながっているんだ。」「そうそう、私もそう思ってたんだ。」と、一人一人が思い、自分を見つめ直すことに関係づけることが必要です。

イノベーションを考えるにあたっては、今まで学習をつくってきた際に、壁があるなど感じていたことを取り払うことにヒントがあるように思われます。例えば、児童が幼稚園や保育園から小学校に入学した時、図画工作科の学習であっても、やり方の指導によって指示待ちの姿になりがちです。そうしたことから、面白そうだと感じてやり出す自己発動を促すには、幼・保・小の連携が不可欠です。この不可欠な連携を壁ととらえがちではなかったでしょうか。壁と想ってしまう感じ方を変化させるチャンスです。今までのようにはいかない今だからこそ、変化させるチャンスなのです。



「もの・こと・ひと」と関わりながら子どもたちは自分を表現していきます。自分の感覚を通して面白さを実感します。その感じ方や強さは、その子の特徴や個性にまでつながっています。面白いと感じる力は、どんな人であっても心と連動して表現されているからです。

星槎大学 非常勤講師
元 横浜市立
平戸小学校 校長
はしもと けいこ
橋本 敬子



「も・こ・ひ」
つながる学習
幼稚園・保育園での
経験がつながる

「すなとなかよし
〜おだんごいっしょい
ならべたらり〜」

〔活動のはじまり〕

小学校に入学して間もない子どもたちは、新しい環境への変化に対する大きな期待がある反面、さまざまな不安を抱えている。図画工作科の授業においても、幼稚園・保育園までの子どもが主体性を発揮して展開していく活動から、時間の制約や評価の観点から教師主導で「〇〇をやってみよう」という指導が行われる変化がある。幼稚園・保育園では、子どもの主体性に任せて行われていることが多く、子どもたちは自分でどんどんやりたいことを見つけていく。例えば砂遊びにおいて、砂場がある↓遊びを見つめる↓自分なりの表現を探す↓表現を楽しむなど。

そこで私は小学校でも、幼稚園・保育園での活動を踏まえた活動内容の題材を設定することで、今までの経験をもとに子どもたちが安心して主体的に

取り組めるであろうと考えた。図画工作科の砂や泥を材料とした造形遊びの中にこれまでの経験を踏まえた題材を設定した。

〔幼稚園との
連携のポイント〕

幼稚園教諭や保育士の話を聞いたり、実際に子どもたちの様子を観察したりする中で、幼児期の子ども達の発達段階や子どもの活動について知ることができた。

A 幼稚園では参観に伺った際、下駄箱の上に泥だんごがたくさん置いてあった。また、外遊びの時間に多くの園児が砂場で遊んでいた。A 幼稚園では、砂遊びを盛んに行っていることがわかった。本題材では、各幼稚園や保育園での経験の違いを学級全体で共有し、それぞれの経験を生かしながら資質・能力を高めることを目的とした。

〔活動の実際〕

事前

●突然授業に入るのではなく、幼稚園・保育園での砂遊びの経験を思い出させるため、休み時間に子どもたちと砂遊びを行った。また、あまり進んで砂遊びに関わってこなかったと考えられる児童には、一緒に遊びながら砂に慣れるよう促した。

第1時

●砂と触れ合って感じたことや、砂をつかんでできそうなことを子どもたちから引き出し、思いついたことを実際に皆でやってみながら、感じたことを伝え合った。

●題材名を提示し、活動の方向性を示した。泥だんごをつくって並べたり積んだりする中でさまざまな工夫をして表現することができると伝える。泥だんごの大きさや並べ方、置く場所、色などの工夫による表現の広がりを子どもたちが実感していた。



第2時

活動を鑑賞し合う

●個人での活動が停滞してきたタイミングで、友達が表現しているものを鑑賞し合う時間を設けた。友達に自分の表現を紹介する姿や、友達の表現を見ながら新たに発想を膨らませている児童の姿が見られた。

●自分の表現が広がっていく中で、「友達の表現とつながってみたい」という思いが高まり、友達と一緒に活動し始める児童が現れる。周囲の友達と一緒に表現している児童の様子を目にして、「自分も一緒にやってみたい」という思いをもったように、グループで活動する姿が増えつつあった。

表現したことを鑑賞し合う

●授業の最後に、互いの表現したものを鑑賞し合う時間を設けた。友達や他のグループによるそれぞれの表現から、面白さを感じているようであった。

幼稚園での経験を 生かした題材設定の 工夫の効果

本題材では、砂と触れ合って砂を用いた表現の面白さを味わう活動だけでなく、泥だんごをつくって工夫しながら並べたり積んだりするよさや面白さを味わう活動まで発展することが可能な題材を設定することができた。

実際に幼稚園での子どもの姿を見たり、

幼稚園教諭に子どもの話を聞いたりしたことによって、幼児の発達段階の特性も知ることができ、小学校1年生に対して指導にあたる際の、新たな視点をもつことができた。活動において、途中で子どもたちの活動の様子を全体化したり、友達同士で活動の様子を鑑賞し合う時間を設定したりすることによって、導入場面と同じように、学級全体に新たな表現方法などが広がっていった。子どもたちの異なる経験が混ざり合い、新たな発想が生まれたり、

創造的な技能が発揮されたりしていた。子どもたちの経験をとらえ、それぞれの経験を生かすことのできる活動を設定することで、安心して活動を行う子どもの姿につながると感じた。

福岡県北九州市立
志井小学校 教諭
やすだ ふみや
安田 文也



- 1 自分でつくっただんごを友達がつくっただんごと一緒に並べている様子。
- 2 熱中してつくり続ける様子。
- 3 友達と一緒につくった泥だんごトンネル。とても満足そうな表情でした。



5の2のアーティ 町の人を元気にしよう プロジェクト

活動のはじまり

令和二年度は始業式の翌日から臨時休校となり、その後は分散登校となった。6月によりやくクラス全員の子どもが教室に揃ったが、友達と距離をとることや、マスクの着用が必要となるなど、さまざまな制限が設けられた。また、これまで開催していた異学年や地域の方々と関わる活動のほとんどが中止となった。

5年2組のクラスでは、このような状況の中で、自分たちができることを考えるための話し合いを行った。「みんなで歌を歌って、町の人を元気にしようよ。」「ダンスを踊って見てもらいたい。」「劇をつくるのもいいと思う。」「子どもたちから前向きな意見が飛び交った。しかし、ある子が「コロナの状況を考えたら、人を集めて何かをするのは難しいよ。」と言った。「確かに。」とつぶやき、皆の表情が一気に曇った。そのような中で、「だったら、絵を描けば

いいんじゃないかな。絵なら感染しないし、思いを届けることができる。5の2のアーティで大口を元気にしようよ。」と言った子がいた。「それはいい。」と教室中に歓声が沸き起こった。こうして、アーティで町の人を元気にすることを目的とした活動が始まった。

次に、活動場所とアーティの内容を話し合った。多くの人を元気にしたいという思いから、町の人の多くが利用する大口駅を活動の拠点として考えた。そして駅の特徴を踏まえながら、駅内にアーティ（絵）を展示するという活動の方向性が決まった。5年2組の児童は絵を描くことが大好きな子が多く、自分たちのよさを生かすことができるのも、絵を選択した理由の一つだった。自分たちの思いや願いを伝えるために何度も話し合いを重ねた結果、クラスの思いが駅員さんに届き、駅に絵を展示させてもらえることになった。



5の2のアート 第一弾

絵のテーマは、保護者や在校生にアンケートを取って決めることにした。アンケートでは、「どのような絵を見ると、元気になるですか。」という質問をした。「子どもが頑張っている様子を描いた絵」「コロナでできないことや行けないところを描いた絵」「豊かな自然を描いた絵」という意見が多く、これらを描くことにした。

駅の展示場所に合わせて、絵を四枚（各B2版）と活動を紹介するポスター二枚をつくることになり、四人から五人のグループに分かれて、絵やポスターを製作した。町の人を元気にするという目的が、子どもの表現意欲を駆り立てた。また、駅に飾ることを考えて、描くもの大きさや、色使いを工夫していた。目的があったり、相手を具体的にイメージしたりすることで、よりよい表現を追求しようとする気持ちが高まることを私は実感した。どの絵も、自分たちのイメージを具現化するために、図鑑を参考にしたり、実際に行つて撮った写真を見て描いたりし、たくさん工夫を凝らしていた。夏休みに入る前日に絵が完成した。実際に自分たちの絵が駅に飾られていく様子を見て、子どもたちほととも嬉しそうな表情をしていた。絵は、八月二日から、九月下旬まで駅の跨線橋に掲示してもらった。①

絵を見た町の人から「皆さんの絵に元気をもらいました。町のみんなのために



① 5の2のアート第一弾の展示の様子。

ありがとう。」という手紙が届いた。また、地域広報誌のタウンニュースにも取り上げてもらい、自分たちの活動を価値づけしてもらった。活動を通して児童たちは、僕たちの絵には人を元気にする力があるということがわかった。でもそれは、上手だからというわけではなく、町の人のことを思つて描いたからだと思う。「たくさんの方が私たちのことを応援してくれているのが私たちが自分たちのためではなく、人のために頑張ってきたからだと思う。」「生懸命にやれば、応援してくれる大人がたくさんいるということがわかった。」と、たくさんの方のことを学んだ。

5の2のアート 第二弾

一学期の活動を終え、さらに町の人を元気にしようという活動が再開した。絵は、冬休み期間中に展示してもらえらることになった。展示する場所や活動時間の条件などを踏まえて、二人で一枚（B2判）の絵を描くこととし、全部で十五枚の絵を描いた。今回の活動は、一学期よりも多くの人に元気を与えることを目標とした。そこで、一学期に展示をした際の絵を見て感じたことをアンケートで調査をすることにした。感染拡大防止への配慮から、駅などでアンケートを取ることは控えて、学校の在校生の保護者と教職員を町の人の代表としてとらえてアンケートを取り、250件近くの回答を得ることができた。アンケートの結果を踏まえながら、「初日の出を友達と温泉に入りながら見る絵」「おじいちゃんやおばあちゃんの家に帰省をし、

再会する絵」「家族や親戚がみんな集まつて、鍋を食べている絵」など、「コロナ禍において失われた日常に思いを馳せる絵が完成した。絵を描いていく中で、「絵の中ならマスクを外してもいいよね。だって、絵は自由なもの。想像したことが自由に表現できるよね。」と言った子どももがいた。絵を描くことを通して、絵の魅力を十分に感じるとともに、町や人とのつながりの大切さを感じていることを実感していることが伝わってきた。絵とポスターを完成させ、再び大口駅に飾ってもらった。子どもの絵を前にして足を止めている人がたくさんいた。私は、子どもの思いが町の人に届いたことを感じて嬉しかった。

神奈川県横浜市立
西寺尾小学校 教諭
かさと けんた
笠本 健太





「作品+その作者」の スクール出前鑑賞

子どもと鑑賞

友人の小学校の先生から、「5年生の鑑賞の授業を、一緒に取り組んでほしい。」と連絡があった。突然の連絡で驚いたものの、私も小学生を対象とした絵画教室を開いていたので、小学校の図画工作科の授業には関心があった。連絡をくれた先生に話を詳しく聞いてみると、先生の鑑賞に対する思いを聞くことができた。

「以前、5年生の児童と校外学習で横浜のみなどみらいを訪れたときのことである。横浜トリエンナーレが開催されていた時期と重なり、みなどみらいには、多くの美術作品が展示されていた。子どもが作品の近くを通ったとき、担任の私は彼らの反応に目を向けた。すると、横目で作品を見るものの、関心をもって見ている子どもは少ないように感じた。後から子どもたちに話を聞いてみると「面白そうだとは思ってたけど、意味がわからなかったよ。」という答えが返ってきた。私は、作品の形や色を味わうことの面白さや、作者の思いや願いを想像しながら鑑賞することの楽しさを子どもたちに味わってほしいと思った。このような子どもたちの実態を踏まえて、私は子どもと芸術家が直接出会うことのできる場をつくり、作者の思いや願いを考えることを大切にしたい鑑賞の授業を行いたいと考え、授業の依頼をさせていただいた。」

先生の思いを聞き、私の作品を使った鑑賞の授業を一緒に行うことにした。私の絵から何かを感じ取ってもらえたら嬉しいと思った。そして、自分が絵に込めた思いを語ることで、子どもに作者の思いや願いを想像しながら鑑賞することの楽しさを味わってもらいたいと思った。また、私自身も表現者として、自分が描いた絵を見て子どもが何を感ずるのかを知りたかった。私は先生と相談して、男の子が自然の中でザリガニ釣りをしてしている様子を描いた作品を持つていくことにした。

授業の様子

私の絵を見た瞬間に、子どもたちからは大きな歓声が沸き起こった。子どもの反応は、私が想像していたものよりも大きかった。興味をもって絵を見ている子どもの姿が嬉しかった。絵を見ながら、子どもたちに見つけたことや感じたことを発表してもらった。はじめは描かれたモチーフに注目している子どもが多く、ザリガニや咲いている花の形の細かい変化などの話題が中心となった。

次第に、子どもたちは絵と作者である私の生い立ちや考えなどを重ね合わせて想像を巡らせながら作品を見るようになっていった。子どもたちの意見は、私が描きたかったことを的確にとらえたものが多かった。一方で、私が考

えもしなかったようなことまで想像してくれた意見もあった。子どもたちの多様な意見を聞くことで、私自身の絵に対する見方も広がり深まっていった。授業の最後に私から、自分の表したかったことや表現の意図を子どもたちに伝えた。子どもたちが、作者である私と一緒に作品の鑑賞をした体験をきっかけとして、今後も作者の思いや願いを想像しながら絵を見ることの楽しさを感じてくれたら嬉しく思う。

子どもたちの反応

男の子がザリガニを釣っているよ。

咲いている花や蕾の花もあるね。

男の子は半そでだから夏の間だと思う。

小学校3年生くらいの男の子かな。

清水さんの少年時代を描いたものかな。子どもの頃のことを思い出せる絵にしたかったのかな。

清水さんはこういう自然を残してほしいという思いを込めて描いたように感じる。

自然がたくさんある場所だね。

清水さんは横浜出身だから、横浜のどこかを描いた絵なのかな。

僕たちが住む横浜の町には、こんな場所がないから、横浜じゃないかもね。



夏日【紙本着色／162×162cm】2014年 第16回雪梁合フイレントエ展 佳作

担任の先生より活動後の様子

この活動の後に、絵に表す題材を行ったところ、以前よりも表したいことを明確にして絵を描く児童がたくさんいた。鑑賞活動の効果が表現に現れることがわかった。

この男の子は、すごく集中している。何事にも一生懸命やることの大切さを清水さんは伝えたかったのではないかな。

表したいことをしっかりとをもって絵を描くことの大切さがわかった。

人間が自然の中で生きていることの素晴らしさや、子どもが集中して一つのことに取り組んでいる美しさを表したかった。

日本画家／アーティスト 清水航

1983年神奈川県生まれ。多摩美術大学大学院博士前期課程日本画修了。在学中の2007年より日本美術展覧会に出品、初入选以後毎年出品し現在に至る。洗練された高い描画技術に伝統的な花鳥画の画題は、正に日本画の王道でありながら、その色彩は極めて独特、革新的でさえある。



「肥後守とバツタもん」



そもそも肥後守は肥後熊本のものではない。播州三木打刃物で有名な兵庫県三木市でつくられる登録商標の小刀である。肥後の殿様であり勇猛果敢な加藤清正が好み、飾り気のない剛刀で知られる刀鍛冶、同田貫一派の日本刀にあやかったものである。両刃で反りのある形は、まさしく小型の日本刀である。それに対して「バツタもん」には、のこぎりやフォークなどがつき、どこことなくユーモラスである。調べてみると、出所は大阪市や東大阪市にたどり着く。「大阪のおっちゃん、おもしろいなあ。」と一声掛けたくなってくる。ちなみに「バツタもん」の言葉には、本来偽物の意味はない。刃物と子どもたちの距離が遠くなる昨今だが、信州あづみ野の池田町立会染小学校では、肥後守教育が35年続いている。新入生は入学式で肥後守を手渡され、上級生からその正しい使い方を教わるのである。

おおつば けいすけ
大坪 圭輔
武蔵野美術大学 教授
造形美術教育における実践研究、特に初等・中等教育段階での造形能力の発達とその教育方法について研究。

ちかごろ 気 になる…

子ども達の「夢」や「思い」を大切に

徳島県徳島市立大松小学校
加藤 由恵



30年近くなる教職経験をふり返ると、一番多く担任したのは1年生です。1年生担任の楽しさは、なんと言ってもその生き生きとした好奇心です。私が好きな授業は、生活科の「学校探険」ならぬ図画工作科の「凸凹探険隊」。文字通り学校のさまざまな凸凹を探して、クレヨン・パスを使って紙に



「不思議な公園」

写し取ります。フロッターージュにより生まれるカラフルな模様大喜びして、子ども達は夢中になって活動します。これは、身のまわりのものを「色ではなく凹凸で見る」という版画の考え方に通じる大切な学習です。

私はいつもこの活動をさらに発展させています。自分でつくった「魔法の色紙」を自由にちぎった形から発想して、「不思議な動物」を誕生させます。「不思議な動物」ですから、本物そっくりでなくても大丈夫。こんな風に、図工の授業でのびのびと活動する楽しさを伝えます。

身のまわりにある身近なものを利用してスタンプ遊び「べたべたペタン」も、材料を色ではなく形でとらえる大切な学習です。オクラを切るとかわいいお星様になったり洗濯ば

さみが鳥の足跡になったり、思いがけない形を発見した時の、目を真ん丸にした子ども達の表情が大好きです。「ハンコとして使うので、材料の色は関係ないよ。」と伝えておいても、つつい色の綺麗な落ち葉を選んでしまうのも1年生の可愛いところ。

この授業もペタンだけで終わらせるのもつたいない。「このすてきな模様を、不思議な世界に変身させましょう。」と提案し、コラージュで登場人物などさまざまなものを加えていきます。海の中の冒険物語や友達と一緒に遊ぶ不思議な公園。子ども達の想像力からさまざまな世界が生まれます。「夢」や「思い」がたくさん詰まった「私が主人公」の物語。楽しそうに語ってくれる子ども達のきらきらした瞳を大切に、今日も授業に向き合います。

GIGAスクール構想、どうする?!

埼玉県坂戸市立城山中学校
鈴木 彩子



私が勤務する学校でも、GIGAスクール構想の実現に向け、3月に一人一台の端末が導入される。5年間かけて進む予定であったGIGAスクール構想であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、児童生徒の「学習を保障する」という考えのもと急速に進んでいる。子ども達の深い学びのために端末を使って何ができるだろうと、その可能性にワクワクする。一方で、物理的にも、教員の心情的にも対応が追いつかない学校現場…。端末を保管する場所の確保から、使い方、端末導入によって起こり得るさまざまなトラブルに思いを巡らせ、不安が募る。

そんな中、中学3年生の自画像の授業で、ZOOMを使って大学の先生に自画像鑑賞の講義をしていただいた。自画像は、自分自身をテーマに主題を見つけ、表現の方法

や材料を自由に選んで制作させている。今年の3年生は、決まった手順や方法がないものにどう対応していいのかわからないといった様子で、なかなか一歩が踏み出せない。あの手この手で背中を押すのだが、私一人の力だけではなく、外の力を借りてみようと思い、この授業が実現した。子ども達は、緊張しながらも真剣に話を聞き、自画像作品への見方、感じ方を深め、新たな価値観を得ることができた。遠隔でも対話ができるZOOMなどの機能を活用することで、子ども達の学びは学校にとどまらず、広く、深くなるのだと手ごたえを感じた。情報とつながり、人とつながり、対話することで大きな知を得ることができる。一人の教師がもっている知識や技能だけではなく、もっと大きな知と生徒とをつなげることができるのだ。

GIGAスクール構想の実現に向けて一人一台の端末が入ったら、もっともっと学びを広げることができる。子ども達とどんな学びが創造できるか、とても楽しみである。



子ども と 美術館



東京富士美術館

東京富士美術館
学芸員 平谷 美華子
ひらや みかこ



東京多摩地域から 世界へ

東京都多摩地域の南西部に位置する八王子市は、古くは戦国時代に後北条氏と徳川氏から軍事拠点として位置づけられた城下町で、江戸時代には甲州街道の宿場町として栄えました。2015年には中核市に指定され、21の大学機関を有する全国有数の学園都市です。

東京富士美術館は1983年、市内北部、滝山城址公園の向かいに位置する緑豊かな



東京富士美術館
〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1
Tel.042-691-4511
開館時間:10:00~17:00(最終入館16:30)
休館日:月曜日※祝日の場合は翌平日に休館

な小高い丘陵地に開館した総合的な美術館です。収蔵品は、日本・東洋・西洋各国、各時代の絵画、版画、写真、彫刻、陶磁、漆工、武器刀剣など、さまざまなジャンルの作品約3万点で、なかでも写真の誕生から現代までの写真史を概観できる約2万点の写真コレクションは世界に誇れる当館最大の特徴です。



アメデオ・モディリアーニ
「ポール・アレクサンドル博士」1909年



常設展示室

展覧会活動としては、「世界を語る美術館」をモットーに、これまで31か国1地域の美術館や文化機関と友好関係を築きながら、世界各国の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を48回、海外現地での展覧会を46回にわたり開催してきました。

2008年には新館・常設展示室が増築オープンし、ルネサンスからバロック、ロココ、新古典主義、ロマン主義を経て、印象派・現代に至る西洋絵画500年の流れを一望できる油彩画コレクションを随時公開しています。

つながり、変化する



アートライブラリー

美術館と市民をつなぐハブリックプログラマは、展覧会に関連した講演会やコンサート、ワークショップをはじめ、お茶会、ダンス、昨今ではオンラインによるスライドトークや哲学カフェなど多様化しており、日々拡張する美術館の役割と新たな可能性を感じています。

毎年夏休みには、都内外の学校からクラブや部活動での来館がありますが、加えて2004年から始まった、市内三つの美術館（八王子市夢美術館・村内美術館・当館）を巡る「はちおうじ美術館めぐりSUN☆KANフリー」も恒例化し、



大学生による鑑賞サポートの様子。

子ども達とついで巡っている姿も目にするようになりました。

2010年度からは、市内の学校と美術館をつなぐスクールプログラムのための鑑賞パスの運行を開始。これまでに約1万人の子ども達が授業の一環として鑑賞パスで来館しています。スクールプログラムは毎回学びの目的に合わせてつくり上げます。「対話による鑑賞」のみならず、さまざまな工夫を凝らした取り組みをすることで、子ども達は楽しく豊かな美術館体験をしています。なかには普段、教室では集中力が保てない子どもが絵の前で集中できたり、授業での来館を機に家族と来館したりするようになった子どももいます。さらに、中学校の職場体験、大学の学芸員実習と、美術館と関わり続ける子どももあり、日常生活につながる体験的な学びとともに子ども達の新たな可能性を引き出しています。

2015年には、隣接する創価大学教育学部の専門科目「ミュージアム・エデュケーション」履修学生による鑑賞サポートが開始され、希望する学校が年々増えています。子ども達は大学生が念入りに考案したユニークなプログラムに参加し、対話や触れ合いを通して美術館や本物の美術作品と親しむことで、作品のもつよさや美しさ、面白さに気づいたり、自分と相手の見方や考え方の違いに気づいたり



ロダン「青銅時代」に触れる子ども達(あそびじゅつかんにて)。



するなど、自然と「主体的・対話的で深い学び」につながっています。大学生は美術館や美術教育、鑑賞方法などについての知識や理論を実践に変える場として学びを深めています。大学と美術館が連携することで、子ども達と学生の双方におけるアクティヴ・ラーニングを通じた「質の高い教育」に貢献しています。

2019年度からは、八王子市立陶銘とうめい小学校と連携した地域鑑賞会「あそびじゅつかん」を開始。あそびじゅつかんは毎月土曜日に地域の人と協同して行われます。その名の通り、展示室でクイズをしたり、手袋を着けて彫刻に触れたり、毎回工夫を凝らしたプログラムを先生方が発案し、幼児から大人まで楽しく美術に親しんでいます。2020年度は、新型コロナウイルス感染症による変化に対応した新しいアプローチでの鑑賞活動を始動。例えば、学校内に当館の美術作品と紐づけたARマーカ―を設置して鑑賞する「AR名画さがしゲーム」や、VRを用いたバーチャル美術館ツアーなど、ICTを活用した安全かつ有意義な美術鑑賞を行っています。

人類の遺産である美術品をより有意義に人々に還元していくための生きた装置としての美術館として、常に変化し続ける地域・世界とつながりをもちながら、柔軟に変化・発展し続けていきます。



エドゥアール・マネ
「散歩」
1880年頃



葛飾北斎
「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」
1830~32年頃

成田市立成田小学校

図画工作科の授業を通して、「自分の思いを表現し、
共につくりだす喜びを味わう児童の育成」を目指した取り組み



千葉県成田市立成田小学校

研究主任

瀬尾 洋子

研究の 視点と内容

本校では、図画工作科の授業研究を進めて三年目になります。授業実践を通して、児童がさまざまな思いをもって活動する中で、自分のよさや可能性を見出し、自身の成長を実感したりする姿が多く見られるようになりました。また、形や色などに対する好奇心、材料や用具に対する関心やつくりだす活動に向かう意欲が向上し、楽しく豊かに生活を創造しようとする学びに向かう力が育っています。

育成する資質・能力を明確にし、
指導の改善に生かす題材開発と授業改善の工夫

視点①

導入・場の設定・材料の工夫

児童が造形的な対象や事象と進んで関わり、形や色、イメージなどの視点をもてるようにする

視点②

指導計画と学習過程、言語活動と体験的活動の充実

児童が主体的に造形活動に取り組み、表現力を高める

視点③

思いを大切にしながら交流活動の工夫

児童が相互に関わり合いながら、造形的な資質・能力を高め合う



3年

互いの発見やよさを認め合い、造形的な見方・考え方を深めている。

「つながれ 広がれ! だんボール」



1年

お花紙が大変身! 自分のイメージをもって全体を使っている。

「くしゃくしゃしたらだいへんしん」



5年

自分の思いをもち、発想を広げて表現活動をしている。

「進め! ローラー大ぼうけん」



1年

空き箱が動物に! たくさんの材料を組み合わせ、自分の作品に生かしている。

「くみわくわくどうぶつランド」



特別支援学級

「ヒュードン キラキラ! かがやけたけのこゆめ花火」



2年

形や色を意識して、夢中に活動していくと新しい発見が!

「ならべて つなげて すかしてみると」



～アートで心を豊かに～

校内環境づくり



【校内の連絡通路「花火通り」】
※壁画は、平成30年度に6年生が地域のアーティストや海外のアーティストと一緒に描いた。



【アートギャラリー】
※中学生の作品も掲示して紹介。

児童の発達段階や題材に応じて、校内のさまざまな場所を活動に生かしています。また、アートギャラリーコーナーを設置し、日常的に美術作品に触れる機会をつくっています。

アート体験! 生活の中にも造形的な美しさが!

地域との連携



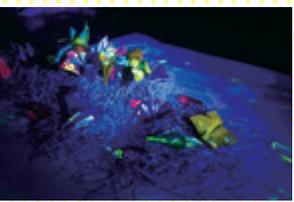
【千葉県立美術館との連携】
※ビルダーカードを活用した造形遊び。



【佐倉市立美術館との連携】
※アートカードを活用した鑑賞活動。



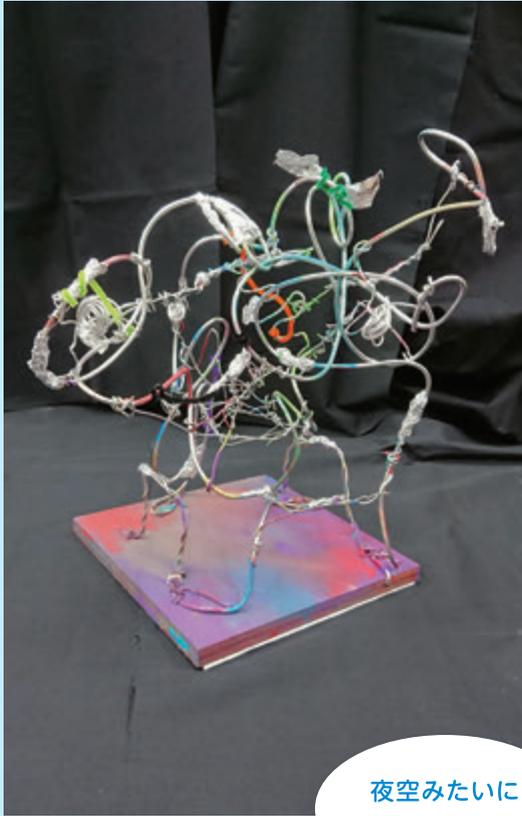
【アーティストとの連携】
※折り紙でつくった思い思いの花に蛍光塗料を付着させた芸術体験。



千葉県立美術館や佐倉市立美術館、地域のアーティストであるシムラユスケ氏などと連携して、体験的活動にも取り組ましました。さまざまな体験を通して、自分たちの造形活動に生かすことができます。また、社会の中にも、形や色に関わるものがたくさんあることに気づきつづけながらもなりました。

クニャクニャ・キラキラ・ワイヤータワー

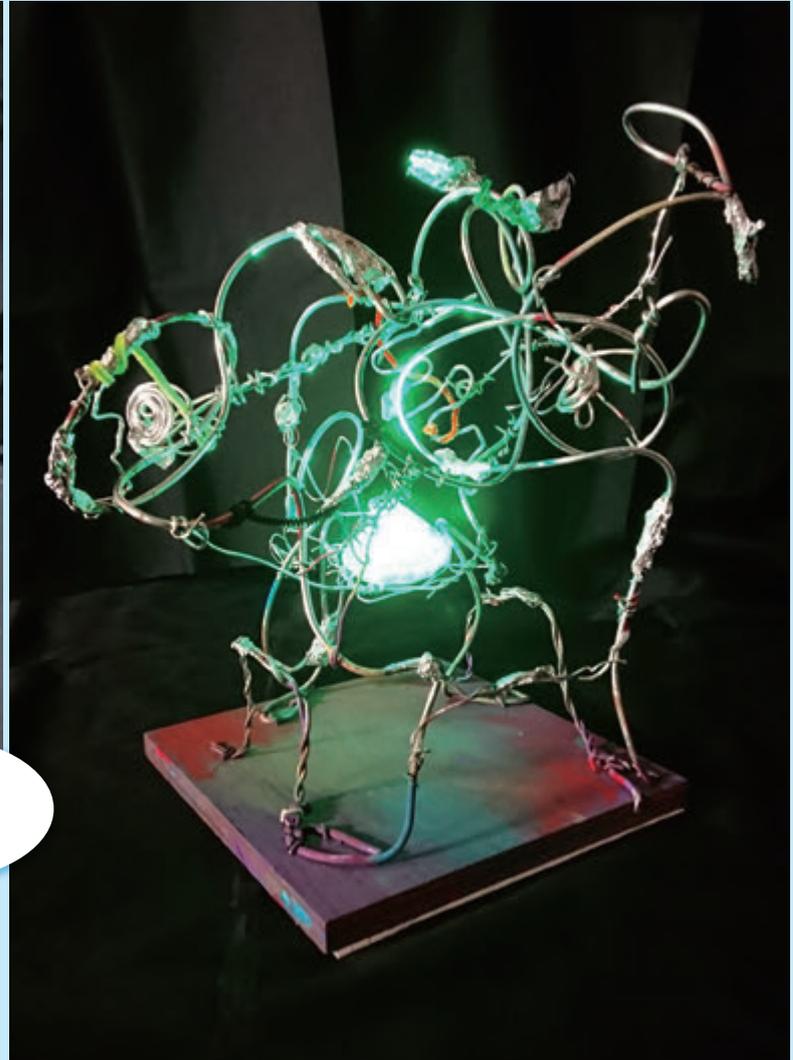
板橋区立中根橋小学校 ひらもと 平本 かおり



① クニャクニャワールド

夜空みたいになりました。

いろいろな形に
針金を曲げてつけてみたら、
面白い形になりました。



アレンジする題材

開隆堂出版「図画工作5・6上」
22・23ページ
見つけて！ ワイヤードリーム

題材のねらい

形を変化させられる針金の特徴を楽しみながら、自分がよいと感じる形を見つけていく。光が針金に反射する効果を感じ取りながら、そのよさが出るように工夫する。

主な材料・用具

土台の板(厚さ12mm)
U字釘
アルミ針金(直径1mm、1.5mm、2mm、3mm)
LEDライト(色が変わるもの)
アクリル絵の具
金づち ペンチ ラジオペンチ

学年
第5学年

時間数
6時間

学習の流れと子どもの活動

1

土台の板に直径 3mm の針金を 4 本、
U 字釘で打ちつけて固定する。

2

土台や針金にアクリル絵の具で色を塗ったり、
模様をかいたりする。

3

LED ライトをどこに設置するか考えながら、
置く場所を針金でつくる。
より輝かせるために、いろいろな太さの針金を
直径 3mm の針金につなげていく。

4

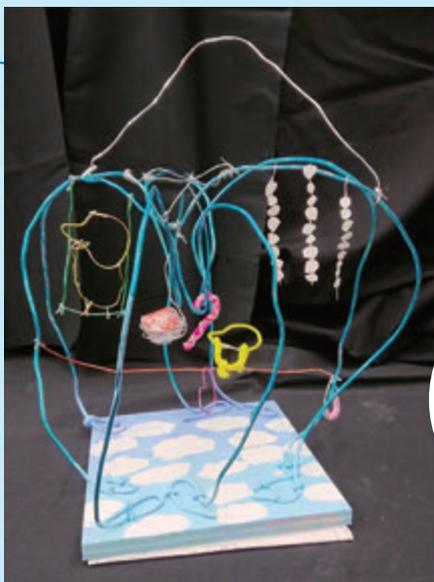
製作の途中で「キラキラタイム」を設ける。
図工室を暗くして、LED ライトの
光の効果を確かめながらつくり進める。

5

アルミホイルやカラーセロハン、ビーズ、
モールなど、針金以外の材料を少し使って、
自分の気に入った感じになるようにつくる。

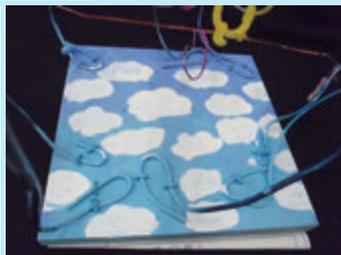
6

自分や友達の作品を鑑賞し、
明るい中と暗い中でのそれぞれのよさや
美しさを味わい、伝え合う。



② 春夏秋冬の鳥かご

春夏秋冬の
色やものが
入っている。



本題材の作品のよさは、針金の曲線の面白さと、光が針金に反射する美しさである。光の効果がよく表れるので、針金をどのように加えるか考えながらつくることを楽しめる。針金にたくさん触れて、自分の行為を通して、表し方を発見して欲しい。

ポイント
ボイントは題材に入る前に、ペンチの扱い方や針金どうしをつなげる方法などを教え、試す時間を設けることだ。材料や用具に慣れさせることで子ども達の表現は広がる。また、安全指導の徹底は不可欠だ。針金は切りっぱなしにせず、先をすぐに丸めることや針金を肩幅以上に長く伸ばしてつくる

ないことなどを徹底する。

はじめに、直径 3mm の針金で全体のイメージをつくらせていく。太さのある線なので、形の変化がわかりやすい。「1m の長さの針金を 4 本」という縛りを設けたが、「これをどう使おうか?」と、試行錯誤を始めるためのきっかけにすぎない。イメージが固まってくれば、本数を増やしても長さを変えてもよく、むしろそれをせひやってみてほしい。自分にとつていい感じの形や曲線になるように針金を動かしながら、自分の判断で切ったり、増やしたり、減らしたりする。

ある程度、自分の好きな感じの形に変化させながら針金を打ち込めた児童は、土台にアクリル絵の具で色を塗ったり、模様をかいたりする。この時、針金に塗って色を変えるのも面白い。針金に色を塗ると LED ライトの光が反射しづらくなることは事前に伝えておく。

教室を暗くし、LED ライトをつけて、光の反射の効果を確認する「キラキラタイム」を 1 回の授業で 2 回ほど設ける。試しながらつくることを繰り返して、表し方を試行錯誤していく。

なお、「キラキラタイム」は薄暗い中での活動になるので、安全管理に注意を払うことに留意する。

題材の観点別 評価内容

知識及び技能

金づちやペンチなどの用具の使い方を理解し、針金の特徴を生かしながら針金以外の材料も使い、表し方を工夫している。

思考力、判断力、 表現力等

針金を曲げたりつなげたりすることから発想して、つくりたい形を考えたり光の反射によって針金をどのように輝やかせるか考えたりしている。

学びに向かう力、 人間性等

針金の特徴や面白さ、光が反射する効果に興味をもつてつくり出す喜びを味わい、活動に進んで取り組もうとしている。

眼が合う ひろふ動物園

弘前大学教育学部附属中学校 蔭苗 靖子 まかなえ やすこ



針金
風糸
新聞紙
障子紙
木工用接着剤
アクリル絵の具
粘土

主な材料・用具

動物の特徴をとらえて彫刻に表現したり展示したりすることにより、立体造形や展示の面白さや楽しさを味わう。

題材のねらい

開隆堂出版「美術1」*
22〜23ページ
彫刻動物園

アレンジする題材

学年
第2・3学年

時間数
25時間

*平成28年度版

学習の流れと 子どもの活動

1

一クラス 10 人前後のチームを
三つづくり、制作する動物を
話し合っ決めて。

2

動物を模造紙に描き、
組ねぶたのつくり方を
参考にして骨格をつくる。

3

水で薄めた木工用接着剤に
新聞紙を浸したもので
肉づけし、最後に障子紙を貼る。

4

粘土で顔の表情をつくり、
アクリル絵の具で重ね塗りの
表現を生かして彩色する。

5

校外に展示しながら
タブレット端末で撮影し、
電子黒板や PC で
相互鑑賞を行う。

6

地域の公共施設で
次年度展覧会を開催する。
作品はすべて解体し、
タブレット端末で撮影した
写真が作品集となり
卒業前に配布される。

開隆堂「美術1」教科書題材「彫刻動物園」にヒントを得て、組ねぶたのつくり方を参考に、大きな動物を共同制作し展覧会を開催するという実践である。平成27年度から続けており、今回で6回目となった。本年度は「眼が合うひろふ動物園」と称し、「鑑賞者が動物と目が合うようにつくる」ことを条件に作品を制作することにした。どんな動物と眼を合わせたら面白いのか、対象年齢は何歳か、そのためには動物のポーズをどのような形にしたらよいのかなどを構想し、チームで対話をさせながら進めていった。

行ったので制作が大幅に遅れたが、手をつくること、表現することの大切さや楽しさを、生徒も教師も改めて実感した。完成作品はタブレット端末で撮影し、校舎内外に展示することで変化する空間の面白さについての学習を中心に相互鑑賞を行った。

美術館や公共施設で行われているのと同様の感染症対策を行い、11月に展覧会を開催した。さまざまな制約の中であつたが、作品を介して来場した地域の方々にも笑顔や元気を与えるという一つの役割を果たしたのではないかと思う。

今後も生活や社会の中における美術と生徒との関わりを可能にする題材を探求し提供していきたい。そしてそれらを経験した生徒が自分の言葉で美術を語れるような、資質や能力の育成に努めたい。

ワシミズクの
目力を出したい!



題材の観点別評価内容

知識・技能
【知識】

動物の特徴的な形や色彩をもとに、それらがもつ美しさや面白さを全体のイメージでとらえることを理解している。

知識・技能
【技能】

多様な材料の組み合わせを生かし、意図に応じて工夫して表現している。

思考・判断・表現
【発想・構想】

鑑賞者と動物の目線が合うような形をイメージしながらそれぞれの主題を生み出し、動物の形や表情を工夫しながら構想を練っている。

思考・判断・表現
【鑑賞】

表現・展示された作品のよさや美しさを感じ取り、制作意図や創造的な工夫について考え、見方や感じ方を深めている。

主体的に学習に取り組む態度
【表現】

動物彫刻制作を通して、創造活動の喜びを味わい、よりよい表現を追求する活動に楽しく取り組もうとしている。

主体的に学習に取り組む態度
【鑑賞】

それぞれのチームによる作品の形や空間を生かした展示の面白さについて考え、見方や感じ方を深める活動に取り組もうとしている。

私がえがいた / あじさい

この絵はひとりじゃできなかったよ。私の花もいいし、友達のもいい。後でこの絵を見たら、その時のことを思い出せると思う。「今、私はこうやって描いているよ。」って伝えたかった。



げんじつアジサイ
[水彩絵の具、油性サインペン/44.5×26cm]
4年 梶本 斗真



私がえがいたあじさい
[水彩絵の具、油性サインペン/44.5×41.5cm]
4年 梅澤 莉央

先生の め

「この絵を飾るなら梶本さんの絵の隣がいいな。」はにかんだ笑顔で莉央さんが話してくれました。

本題材は、花瓶に生けた紫陽花をペンでスケッチをして、薄く色づけを行うシンプルな題材です。

はじめ彼女は、花とその後ろの風景をそのまま描こうとしましたが、途中でふと視線を落とした時、花瓶の横に置かれている梶本さんの道具と作品に気づき、直感したそうです。「この様子を描いた方が、自分の描きたい絵に近づけるかも。」

「私の絵の中に描いてもいい？」と梶本さんに許可を取り、花を取り囲むように、向かい側の席で描いている彼の道具や作品を、そこにあるまま描き込んでいきました。自分なりの見方・表し方を見つけた莉央さん。夢中になって描く彼女に感化されたように、梶本さんもまた…。

これは、コロナ禍の長い休校明けすぐに行った授業です。目の前には季節の美しい花。ようやく再会できた友達と、肩を並べて絵を描く。その状況を心から楽しみ、絵に表すことでこの瞬間をぎゅっと閉じ込めたいという彼女の思いが、視点の絞り方や描き方の工夫から伝わってきました。

「この絵を飾るなら梶本さんの絵の隣がいいな。」はにかんだ笑顔で莉央さんが話してくれました。

本題材は、花瓶に生けた紫陽花をペンでスケッチをして、薄く色づけを行うシンプルな題材です。

はじめ彼女は、花とその後ろの風景をそのまま描こうとしましたが、途中でふと視線を落とした時、花瓶の横に置かれている梶本さんの道具と作品に気づき、直感したそうです。「この様子を描いた方が、自分の描きたい絵に近づけるかも。」

「私の絵の中に描いてもいい？」と梶本さんに許可を取り、花を取り囲むように、向かい側の席で描いている彼の道具や作品を、そこにあるまま描き込んでいきました。自分なりの見方・表し方を見つけた莉央さん。夢中になって描く彼女に感化されたように、梶本さんもまた…。

これは、コロナ禍の長い休校明けすぐに行った授業です。目の前には季節の美しい花。ようやく再会できた友達と、肩を並べて絵を描く。その状況を心から楽しみ、絵に表すことでこの瞬間をぎゅっと閉じ込めたいという彼女の思いが、視点の絞り方や描き方の工夫から伝わってきました。

「この絵を飾るなら梶本さんの絵の隣がいいな。」はにかんだ笑顔で莉央さんが話してくれました。

本題材は、花瓶に生けた紫陽花をペンでスケッチをして、薄く色づけを行うシンプルな題材です。

はじめ彼女は、花とその後ろの風景をそのまま描こうとしましたが、途中でふと視線を落とした時、花瓶の横に置かれている梶本さんの道具と作品に気づき、直感したそうです。「この様子を描いた方が、自分の描きたい絵に近づけるかも。」

「私の絵の中に描いてもいい？」と梶本さんに許可を取り、花を取り囲むように、向かい側の席で描いている彼の道具や作品を、そこにあるまま描き込んでいきました。自分なりの見方・表し方を見つけた莉央さん。夢中になって描く彼女に感化されたように、梶本さんもまた…。

これは、コロナ禍の長い休校明けすぐに行った授業です。目の前には季節の美しい花。ようやく再会できた友達と、肩を並べて絵を描く。その状況を心から楽しみ、絵に表すことでこの瞬間をぎゅっと閉じ込めたいという彼女の思いが、視点の絞り方や描き方の工夫から伝わってきました。

(文) 東京都品川区立城南小学校 主任教諭 関 さとみ